

St. Luke's International University Repository

看護における多様な働き方と学び方

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野崎, 真奈美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/0002000408

【第29回聖路加看護学会学術大会：大会長講演】

看護における多様な働き方と学び方

野崎真奈美

I. はじめに

看護師らの勤務する場や働き方も多様になり、医療や教育への非医療職・営利団体の関与も増えた。また、超高齢社会やAIの進展により、看護の主要概念である「健康」「環境」「人間」のとらえ方にも変化が生じている。このような状況下でも、看護の重要性は揺らがないと考えるが、看護の核を次の世代にどう伝えるかは課題といえる。現行の看護学のあり方や価値観において、再検討すべき部分が見過ごされている可能性もあり、固定観念を揺り動かす時期にきているのではないかと考える。

本稿では、議論を通して看護のダイバーシティを拓くために、看護における多様な働き方と学び方についていくつかの問題提起をする。

II. 社会の変化に伴う看護職に求められる多様な働き方

わが国は人口の高齢化を受けて、2025（令和7）年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している。実際に、看護職の就業場所別就業者数を比較すると、2011年には、病院・診療所82.7%が最も多く、居宅サービス等3.0%、介護老人保健施設2.9%、介護老人福祉施設2.3%、訪問看護ステーション2.1%と続いていた。2020年には、病院・診療所78.4%、居宅サービス等4.3%、訪問看護ステーション3.9%、介護老人保健施設3.2%、介護老人福祉施設2.5%となり、勤務する場が医療施設から地域に分散していく傾向がうかがえる。

働き方については、医師の働き方改革を受けて、タスク・シフト／シェアの取り組みが推奨されている。タスク・シフト／シェアとは、従来、ある職種が担っていた業務を他職種にシフト（移管）すること又は他職種とシェア（共同化）することである（日本看護協会，2022a）。2023年病院看護実態調査（日本看護協会，2024）では、

タスク・シフト／シェアの「取り組みを開始している」61.1%、「検討には着手したが、まだ取り組んではない」16.9%と、約8割の病院でタスク・シフト／シェアの取り組みを開始していることが示された。さらに、取り組みを開始している場合に、医師からタスク・シフト／シェアを実施したことで看護師が行うようになった業務は、「注射、採血、静脈路の確保等」76.0%、次いで「診察前の情報収集」59.5%の順に多かった。

一方、看護師からタスク・シフト／シェアを実施した医師以外の医療関係職種は、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士の順に多かった。薬剤師に移譲した内容は、「入院患者の持参薬の内容確認等薬学的管理」87.9%、「薬剤の在庫管理」58.5%、「抗がん剤等の適切な無菌調剤」56.1%が多かった。臨床検査技師には、「病棟・外来における採血業務」85%が多く、管理栄養士には、「食事内容や形態の変更または提案」97.3%が圧倒的に多かった。

もうひとつの移譲先として、看護補助者へのタスク・シフト／シェアがある。看護補助者とは、看護助手、看護アシスタント、ナースエイド、ケアワーカーなど所属機関によって呼称が異なるが、病院などの医療機関で、看護チームの一員として看護の補助業務（専門的判断は必要ない）を行う職種をさす。看護補助者は、看護師長及び看護職員の指導の下に、原則として療養生活上の世話（食事、清潔、排泄、入浴、移動等）、病室内の環境整備やベッドメイキングの他、病棟内において、看護用品及び消耗品の整理整頓、看護職員が行う書類・伝票の整理及び作成の代行、診療録の準備等の業務を行う（厚生労働省，2024）。

このように看護補助者にタスク・シフト／シェアすることによって看護職は、「入院患者に対する観察」「ベッドサイドでのケア」「患者家族とのコミュニケーション」といった看護の専門性を要する業務への時間を増やせたとの報告がある（日本看護協会，2022b）。

以上のことから、働く場が多様になり、期待される役割が生活の支援からより専門性の高い業務へ変わってきたことを受けて、看護職はなにをする人か？なにを手放し、なにを残すのか？発揮すべき専門性とはなにかと問いたい。

一般社会に目を向けると、わが国はSociety5.0超スマート社会を目指している。すなわち、仮想空間と現実

空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会である。医療現場においても医療 DX (digital transformation) の推進が叫ばれている。医療 DX とは、保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータを、クラウドなどを通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることである。すでに、ロボットやアプリケーション（以下、アプリ）が患者の受診や自己管理を支援している。また、看護師の業務のなかにも、電子カルテをはじめとした数々の information and communications technology（以下、ICT）が組み込まれている。情報活用能力（ICT 利活用）が高い看護師は、コンピュータに対する不安が低く、看護実践能力が高いという興味深い報告（吉川ら、2019）からも、看護実践能力の構造が変わってきていることが示唆されている。

以上のことから、医療現場における看護職の働き方、たとえば使用するツールや求められるスキルが変わってきたこと、看護実践能力の構成要素が変わってきたことを受けて、時代に合わせて変えてもよい価値観はなにか？いかなる時代でも守るべき価値観はなにか？と問いたい。

Ⅲ. 看護学生に求められる多様な学び方

看護実践が変わっていくなか、次の世代になにをどのように伝えていけばよいのだろうか。18歳人口はピーク時（昭和14年）には約297万人であったが、令和5年には110万人に半減した。令和23年（2041年）には80万人を切ることが予測されている。一方、高等教育機関への進学率は上昇を続け、令和5年（2023年）には大学（学部）進学率57.7%、専門学校等を含む高等教育機関全体では84.0%となっている。18歳人口に対する現役大学志願率は60%前後、つまり大学全入時代が到来した。

この状況を踏まえ、中教審答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、「なにを教えたか」から「なにを学び、身につけることができたのか」へ転換、すなわちコンピテンシー基盤型教育への移行が示された。さらに、これを推進するためには、多様性と柔軟性を確保（ICT を活用した教育の促進）した教育研究体制が求められると提言した。

「コンピテンシー（能力）」とは、単なる知識や技能だけでなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈のなかで複雑な要求（課題）に対応することができる力とされる（中教審、2018）。また、「コンピテンシー」は、ある要求・課題に

対して、内的リソース（知識、スキル、態度・価値観）を結集させつつ、対象世界や他者とかかわりながら、行為し省察する能力とされる（松下、2021）。このように、リソースを活用した対応力としてのコンピテンシーは、ある状況下で、実際に行われし、その都度省察しながら学ぶ必要がある。

そこで、看護教育における DX への期待が高まっている。DX の推進により、ICT を使って様々な状況下での判断の積み重ねが可能になる。その結果、臨床現場で最大限の学習成果が上がるよう学内で学習の準備性を高めておくことができる。また、個別最適な学習が可能になり、学習成果の確かな積み上げが期待できる。

しかし残念なことに、看護学教員は DX 化に自信がないとの報告がある（日本看護系大学協議会看護学教育質向上委員会、2023）。技術が進歩しているにもかかわらず、教員が使いこなせないことによって、最善の教育が提供できていないことが懸念される。

現在、多くの看護学生は Z 世代と呼ばれるデジタルネイティブである。タイムパフォーマンス（時間対効果）を最大化したいという傾向があり、最小の労力で最大の成果を得ることを重視し、時間を無駄にしたくないと願っている（博報堂、2022）。大学生の意識調査における経年変化では「単位を楽にとれる授業を好む」「学習方法は授業で指導すべき」という回答が増加し、「学生生活は大学が指導すべき」「知識・技能の獲得は大学の責任だ」とする意見が増加した（ベネッセ教育総合研究所、2022）。看護学生の意識も変化しており、看護師の「身だしなみ」に対して髪型や髪色、化粧、衣類で「個人の自由」を選択した割合が有意に高く、一般的に望ましいとされる看護師の「身だしなみ」とは乖離がみられた（吉田ら、2023）。

以上のことから、高等教育ではコンピテンシー基盤型学習が求められており、コンピテンシーの育成には、看護教育でも DX が推奨されている。しかし、看護教員は ICT の利活用に自信がない。それに対して学習者である大学生は多様な価値観（学習スタイル、コミュニケーションスタイル、対人関係）をもっている。このような状況において、看護の核をどのように伝えていけばよいのか？と問いたい。

Ⅳ. 看護のダイバーシティを拓くには

これらの議論を通して、多様な場で多様な働き方をとする看護職による看護のダイバーシティの実現に向けての示唆を得たい。

筆者はこの議論を進めるなかで看護教育学の視点から、TPACK の探究を提案する。TPACK とは、教育学分野で2000年代に開発された教授法とテクノロジーの統合を示すモデルである。教師が活動する環境などの文脈のなかで、教育学的知識（Pedagogical Knowledge；

PK), 教科の内容知識 (Content Knowledge ; CK), 技術的知識 (Technological Knowledge ; TK), とそれらを組み合わせた計7つの知識領域に分類される。これらすべての共通部分が技術とかかわる教育学的内容知識 (Technological Pedagogical Content Knowledge ; TPACK) である (中村ら, 2024)。テクノロジー (技術) に制限はないが, ここでは以前から慣れ親しんだ教具に加え, デジタルテクノロジーの利活用を含めた技術を指すこととする。TPACK は, 3つの構成要素 CK, PK, TK をすべて超えた, 新しい形の知識である (若松, 2020)。これらの相互作用によって教師の力量が形成されるといえる。すなわち, デジタルテクノロジーが発展した現在, 看護教員が ICT に苦手意識をもち, 無関心であると, 力量形成が阻害されるのではないかと考える。ダイバーシティを拓く第一歩として学習者にとって最適な授業の設計を推進するために, デジタルテクノロジーを含めた教育実践能力の向上を目標にすることを提案する。

V. おわりに

看護の本質, 守るべき価値観と変えていく価値観についてさまざまな立場から活発な意見交換をすることで, 看護のダイバーシティを拓くことを期待する。

引用文献

- ベネッセ教育総合研究所 (2022): 第4回大学生の学習・生活実態調査報告書データ集 [2021年]. https://benesse.jp/berd/koutou/research/detail_5772.html (2024/11/26).
- 中央教育審議会答申 (2018): 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申). https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt_koutou01-100006282_1.pdf (2024/11/26).
- 博報堂 (2022): スタディプラスと博報堂若者研究所の調査からみる「若者と時間」の変容: 企業が若者の心をつかむポイントを考える. <https://www.hakuhodo.co.jp/magazine/97662/> (2024/11/26).
- 厚生労働省 (2024): 看護補助者 (看護助手, 看護アシスタント, ナースエイド, ケアワーカー等) の確保について. https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37785.html (2024/11/26).
- 松下佳代 (2021): 教育におけるコンピテンシーとは何か; その本質的特徴と三重モデル. 京都大学高等教育研究, 27: 84-108.
- 中村謙斗, 御園真史, 渡辺雄貴 (2024): インストラクショナルデザインの学修が授業設計・TPACK および数学指導不安感に与える影響. 日本教育工学会論文誌, 48 (3): 457-472, DOI: 10.15077/jjet.47110.
- 日本看護系大学協議会看護学教育質向上委員会 (2023): 看護教育DX化に向けて実態調査【B調査】報告書. <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/cyo-usaB.pdf> (2024/11/26).
- 日本看護協会 (2022a): 看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドライン及び活用ガイド. https://www.nurse.or.jp/nursing/shift_n_share/guideline/index.html (2024/11/26).
- 日本看護協会 (2022b): タスク・シフトシェア. https://www.nurse.or.jp/nursing/shift_n_share/fixation/pdf/necessity.pdf (2024/11/26).
- 日本看護協会 (2024): 2023年病院看護実態調査報告書. <https://www.nurse.or.jp/nursing/assets/100.pdf> (2024/11/26).
- 吉田 香, 美濃陽介 (2023): 看護師, 臨地実習中の看護大学生の身だしなみに対する意識調査. 日本看護学教育学会誌, 33 (1-1): 39-48.
- 吉川由香里, 吉田素文 (2019): 看護職員の ICT スキルとコンピュータ不安と看護実践能力の関係. バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌, 21 (2): 37-45.
- 若松大輔 (2020): テクノロジーを用いた授業づくりの力量に関する一考察: PCK から TPACK への転換に着目して. 教育方法の探究, 23: 21-28, <https://doi.org/10.14989/250862>.